

[普及事項]

新技術名：ブルーベリー斑点病の薬剤防除（平成16～20年）

研究機関名 果樹試験場特産果樹部・天王分場
担当者 佐藤 裕・飛島正人 他3名

[要約]

ブルーベリー斑点病に対して、ストロビードライフロアブルおよびインプレッション水和剤は、いずれも高い防除効果が認められる。

[ねらい]

本病は、平成8年ごろから県内のブルーベリー産地（本荘由利地域）で散見されていたが、近年、産地全体へ蔓延する様相を呈している。本病に罹病すると激しく落葉し、収穫量の減少や果実品質の低下がみられ、その被害は甚大となる。このため、本病に対する防除法を確立する。

[技術の内容・特徴]

1. 本病に対しては、ストロビードライフロアブル 3,000倍、およびインプレッション水和剤 500倍を散布することにより、いずれも高い防除効果が認められる（表－1， 3）。
2. 本病原菌の主な感染時期は5～6月であり、この時期が防除適期である（表－2）。

[普及対象範囲]

県内ブルーベリー栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

適正使用基準は以下のとおり

1. ストロビードライフロアブル
 - 1) 希釈倍数：3,000倍
 - 2) 使用液量：200～700L/10a
 - 3) 使用時期：収穫14日前まで
 - 4) 本剤の使用回数：2回以内
 - 5) 使用方法：散布
 - 6) 総使用回数：2回以内(本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数)
2. インプレッション水和剤
 - 1) 希釈倍数：500倍
 - 2) 使用液量：－
 - 3) 使用時期：発病前から発病初期まで
 - 4) 本剤の使用回数：－
 - 5) 使用方法：散布
 - 6) 総使用回数：－

[具体的なデータ等]

表-1 ブルーベリー斑点病に対するストロビードライフロアブルの防除効果(2004)

供試薬剤	調査葉数	発病葉率 (%)	落葉率 (%)	被害葉率 (%)	防除価
ストロビーDF ² 3,000倍	311	4.1	0.0	4.1	94.8
無処理	312	54.0	51.7	78.3	—

数値はいずれも2区の平均値、防除価は被害葉率を基に算出

散布：5月26日、6月9日、6月23日

調査：7月7日（3回目散布から2週間後）

被害葉：発病葉+落葉

²ストロビーDF：ストロビードライフロアブル

表-2 ストロビードライフロアブル散布による秋期における落葉防止効果(2004)

供試薬剤	調査葉数	落葉率(%)
ストロビーDF 3,000倍	285	19.6
無処理	286	78.8

数値はいずれも2区の平均値

散布：5月26日、6月9日、6月23日

調査：9月29日

ストロビーDF：ストロビードライフロアブル

表-3 ブルーベリー斑点病に対するストロビードライフロアブルおよびインプレッション水和剤の防除効果(2005)

試験区	散布時期				調査 葉数	発病葉 率(%)	落葉率 (%)	被害葉 率(%)
	6月8日		6月22日					
1区	インプレッションWP ^Y 500倍	ストロビーDF ^Z 4,000倍			254	6.7	0	6.7
2区	インプレッションWP 500倍	インプレッションWP 500倍			254	8.4	0	8.4
3区	インプレッションWP 1,000倍	インプレッションWP 1,000倍			256	39.8	2.6	42.4
4区	ストロビーDF 4,000倍	ストロビーDF 4,000倍			250	24.4	1.6	26.0
無処理	—	—			271	36.9	54.4	91.3

調査：7月6日（2回目散布から2週間後）

被害葉：発病葉+落葉

^YインプレッションWP：インプレッション水和剤

^ZストロビーDF：ストロビードライフロアブル

[発表文献等]

北日本病害虫研究会報(2007) 第58号 P192

今月の農業(2007) 第51巻10号 20-23 化学工業日報社